

## 「第3回 北九州市子ども・子育て会議」での主な意見・要望

## 1 プラン全体について

- |     |   |
|-----|---|
| (1) | <p>「次世代育成行動計画」は、「次世代を育成する」という考え方を基に作られるものであるから、子どもが次代の親になるという視点だけでなく、20代の若者が50代になるという視点、今の親が祖父母世代になるという視点も考えられる。</p> <p>こうした視点をもって計画づくりをすることが、コミュニティを作っていくことにも繋がるし、「地域社会全体で」という理念にも沿うものになる。</p>   |
| (2) | <p>計画を誰に見てもらいたいのか、となると、行政としては「市民の皆さん」と言わざるを得ず、0歳から100歳までという範囲になる。</p> <p>プランが出来上がったのち、プランで伝えたいことを伝えていくにあたっては、それぞれの世代、それぞれの社会性、ダイバーシティの中でどう伝えていったらいいかを、絶えず考えていく必要がある。</p>  |
| (3) | <p>「次世代育成行動計画」は、若い世代、子どもに関わる人たちだけが対象というイメージがどうしても拭えない。</p> <p>世代を越えて次の世代を育てていくというのであれば、若い世代だけでなく、いろんな世代にもっと（子育て支援等に）関わってもらいたい。</p> <p>高齢者も、次の世代のために「親育ち」に関わっていくといった視点等があっても良いと思う。</p>   |
| (4) | <p>結婚、出産、育児、それぞれのライフステージに関わるプロ集団がいるが、そういったプロ集団を貫いていくような施策があっても良い。プランの中に、「誰を巻き込むのか」という視点があると面白いのではないか。</p>   |
| (5) | <p>「地域社会全体で支援する」という考え方が、計画の基礎にあることは理解しているが、「地域社会全体で」とか「地域における」といった言葉が、各階層（基本理念、視点、施策）で重複して使われている。</p> <p>「地域」という言葉は、基本理念のレベルでは自治体すなわち「北九州市」であり、施策レベルでの「地域」とは枠組みも異なる。</p> <p>「基本理念▶基本目標▶施策」といった階層性がある場合には、同じ言葉でも、その言葉自体の意味合いというものを少し配慮するようにした方が良い。</p> |

(6)	<p>基本理念の「支え合う」や「まちづくり」という言葉は、個性がなく、「普通ですね」というイメージしか湧かない。ぱっと見た瞬間、興味が湧くような表現にした方が良いと思う。</p>
(7)	<p>全体概要で説明する機会が多くなっていくと思うので、「北九州市はこういう子育ての社会をつくりたいんだ」ということが分かるようなストーリー性があると魅力が増すと思う。</p>
(8)	<p>3次計画（たたき台）では、例えば、基本目標の部分では「環境づくり」という体言止めではなく、「環境をつくる」という表現になり、「行動する」というトーンが出て、行政の意思を感じる。これまでの「子どもプラン」をさらに推し進めようという姿勢に関しては、全ての委員が支持していると思う。小さな文言にこだわりすぎず、進めてもらいたい。</p>
(9)	<p>全体概要について、「ユニバーサルデザイン」という言葉もあるように、誰もが一目で見て分かるような、また、読み込まなくてもポイントがつかめるような、そういう工夫ができれば良いのではないか。</p> <p>多くの人にプランを知ってもらうためには、気を遣い過ぎた表現よりも、頭の中に印象に残る言葉が少しでもあった方が良い。</p>
(10)	<p>「子どもプラン」を分かりやすくビジュアルライズする、視覚化していくということは、非常に重要である。例えば、SDGsの17のゴール（及び169のターゲット）を活用するという方法もある。</p> <p>子育ての分野においても、SDGsとの関連性、位置づけも行いながら、全体像をつくり、北九州らしさを出していけると良いと思う。</p>

## 2 基本理念（主題）について

(1)	「子どもの視点」で基本理念をつくるということには賛同するが、現在の事務局案「子どもたちの笑顔と未来を地域社会全体で支え合う“まちづくり”」では、まだ大人目線かなと思う。基本理念は肝心なところなので、しっかり考え、議論した方が良い。
(2)	「笑顔と未来」は、表現としては良いと思うが、全体的に漢字が多く、フレーズとしては長めの印象を受ける。より端的な表現ができるようにする工夫が必要かもしれない。コピーライターの人などの協力があってもいいのではないか。
(3)	本市の掲げるマスタープラン「元気発進！北九州プラン」を踏まえつつ、第1次・第2次「子どもプラン」を継承しながら、さらに一歩進めるという表現を考えていく。完全な解を求めるのではなく、2次プランよりも一歩進んだかなと実感できる、そういう表現であれば良いのではないか。
(4)	「子どもの笑顔があふれるまち 北九州」など、子どもが読んで一目でわかるような表現の方が良いと思う。「子どもが主体である」という意味合いは、そういう表現でも表せるのではないかと思う。

## 3 基本理念（副題）について

(1)	副題（「子育て日本一を実感できるまち」の実現を目指して）は、継続して使用するという考え方のようだが、「この表現、3回繰り返しますか」という気持ちもある。 「日本一」は、子どもや親が実感したらよいのであって、副題は、もう少し易しい、本当に実現できることにしても良いのではないかという思いもある。
(2)	ランキングの結果の中には、実際に本市が一番になっているものもあるが、問題なのは、市民の皆さん一人ひとりが本当に実感できているかということ。他市からの転入者ならまだしも、市内に住む人がそのことを実感するのは、なかなか難しい。 これ（「子育て日本一を実感できるまち」の実現を目指して）を大きな目標（基本理念）に掲げているが、これは答えのない、あるいは達成できない永遠の課題であるのかもしれない。 そういうものを目標にするというやり方もあるのかなとも思う。
(3)	スローガン（子育て日本一を実感できるまちの実現を目指して）が定着してきた中で、次期プランにこのスローガンを掲げないとなると、「なぜ無くしたのか」「もう（日本一を）目指さないのか」「旗を降ろしてしまうのか」という声上がることも想定される。

#### 4 視点について

(1)	<p>「子どもが主体」という意味は、子どもの主体性のようなものを重要視することでもあるとも考えている。</p> <p>子どもは、一方的に支えられる存在ではなく、大人を支える側でもあり、「対等」とまではいえませんが、ある種、「パートナー」であるとも感じている。</p> <p>こういう見方をすると、「切れ目ない」という連続性には、いつまでも支えられる側にいるのではなく、育ちの中で、社会を支える担い手になっていくことも含まれる。そのための意欲を各人が生み出していけるような取組みも必要ではないかと思う。</p>
(2)	<p>「切れ目なく支える視点」は良いと思う。「切れ目なく」だけでなく、包み込むような、例えば「包括性」「包摂」といったニュアンスがもう少し感じられるともっと良いと思う。</p>
(3)	<p>「切れ目なく支える」に、「産褥期」も含めてもらいたい。「産褥期」の精神不安が、母親の自殺に繋がっているという調査結果も見られる。「産褥期」の母親をいかに支えていくかという視点も含めてほしい。</p>
(4)	<p>「切れ目なく支える視点」とは、やはり、国の「基本的な視点」で示すとおり、「結婚・妊娠・出産・育児」を切れ目なく支えることを意味するのであり、親としての成長まで「切れ目ない支援」に含めてしまうことについては、違和感がある。</p> <p>一方で、子は子、親は親と分けてしまうと、親子という相互作用のところが少し表現しづらくなるという面もある。</p>

#### 5 基本目標について

(1)	<p>基本目標4「配慮を要する子どもや家庭を支える環境をつくる」は、基本目標1～3のいずれかの成長段階で支援を行うことになるので、1～3の適切な体系に組み込むことができれば、計画の絵として、きれいになると思う。</p>
(2)	<p>基本目標3「子どもや若者の自主性や社会性が育つ環境をつくる」については、「自主性」のところは「主体性」とした方が良い。</p> <p>「自主性」は決められたことを自ら進んでやること。これからの子どもたちには、自分で何をするかを決め、その道も自分で決めることができる、選択肢も自ら用意するといった「主体性」をもった生き方が大事になると思う。</p>

## 6 各施策について

(1)	今回、各施策に、キャッチフレーズをつけたということだが、各施策が優しい言葉で伝わるようになったと思う。
(2)	施策（6）「幼児期の教育や保育の提供」のキャッチフレーズは、「生きる力で育つ、育てる、育ちあう」といった表現はどうか。 生きる力は、生まれながらに持っているもので、子ども自ら育つ力があるということを強調したい。その一方で、子どもは守らなければいけないので「育てる」という部分は残す。それから、子ども同士、あるいは保育所との関係の中で「育ちあう」という視点も大事。 こういった文言が入ると、施策（6）「幼児期の教育や保育の提供」をうまく表現できるのではないか。
(3)	施策（6）「幼児期の教育や保育の提供」のうち、柱の①は、現プラン（2次計画）では、「量の確保」→「質の向上」の順だった。それが今回（3次計画）、「質の向上」→「量の確保」の順に変更された。これについては、国において「質の向上検討会」が開かれるなど、国の動きにも沿っており良い。「量の確保」という表現そのものも外してもいいくらい「質」に重点を置いていくことが望ましい。
(4)	施策（6）の柱の②では、「多様なニーズ」という文言があるが、これは、親にとっての「ニーズ」なのか、子ども主体で考えたときの「ニーズ」なのか。 保育の場は、「子どもの育ちの場」であるということを忘れないようにしてもらいたい。
(5)	施策（7）「子どもの安全を守る環境整備」について、住環境や安全・安心のまちづくりという視点は大事だと思うが、近年頻発している大規模災害を踏まえ、「災害への備え」というものをどこかに盛り込む必要があるのではないか。
(6)	施策（8）「放課後児童の健全育成」について、タイトルに「放課後児童クラブ」の文言がなくなると、全ての子どもたちの放課後の生活確保と捉えられかねない。 続く施策（9）には、「地域における子どもの居場所づくり」とあるので、施策（8）には、なんらかの形で「放課後児童クラブ」の文言を入れた方が良い。（例えば、キャッチフレーズを「生き生きと過ごす場、放課後児童クラブ」にする等） 加えて、放課後児童クラブと学校との連携強化を明記することも検討してほしい。

(7)	「児童館」も「放課後児童クラブ」と同様、放課後を支える活動を行っており、重要な役割を担っている。施策推進の観点から、「児童館」も施策（施策(8)又は(9)）の主要要素として位置づけてはどうか。
(8)	<p>施策（10）「こころの教育、体験・学習機会の充実」について、子どもの施策は基本的には「場づくり」で、主体性を育むことであると考えている。</p> <p>とはいえ、心が先か、体が先かという議論はあるとは思いますが、心を育てていくことも大事だと思うので、今回「こころの教育」という柱を追加することについては、方向性としては良いのではと思う。</p>
(9)	<p>施策（11）「青少年の健全育成、自立・立ち直りの支援」については、柱を「どん、どん、どん」と並べるのではなく、「切れ目ない支援」のイメージが湧きやすいように、ストーリー性を持たせた柱の建て方にした方が良い。</p>
(10)	<p>施策（12）「社会的養護が必要な子どもへの支援」について、特別養子縁組、養子縁組など、「子どもプラン」に盛り込むことは可能なかわからないが、こういったことも含め検討してもらいたい。</p>
(11)	<p>施策（13）「ひとり親家庭等への支援」に、柱の②として、「子どもの貧困対策」があるが、「子どもの貧困対策」は、母子家庭に限らず、全家庭に関わることなので、（この柱を体系上、どこに組み込めばいいのかわからないが、）ひとり親家庭の全てが「貧困である」との誤解を受けないような工夫が必要ではないか。</p>

## 7 その他

(1)	<p>未婚の母について、特に若年層については、子育ての仕方もよくわからず、母親としての自覚のないまま子を持っているという現状も見受けられる。施策の柱に盛り込むべきというようなことではないが、そういう現状があることを、3次計画の中に少しでも入れてもらえればと思う。</p>
(2)	<p>国の指針がいろいろ市に下りてきている中、こういう会議の場で、それぞれの現場の声を伝えられるのは非常に良いこと。国の指針を北九州市だけが変えてしまうことは難しいとは思いますが、このような場で現場の生の声を聞き、しっかり検討してほしい。</p>